團居してはや碁をはじめけるに、澁茶五郎七燒の茶碗あはたゞしく、下女がたち居してもてなす、

〔風流曲三味線二〕長老樣の聟引出物

新發意智惠を出して、略中錫の水呑茶碗を、銀の土器になぞらへ、略下

〔臨時客應接〕水の好あらば、必汲置の水を出すべからず、略中但水呑茶碗なくば、奇麗なる茶漬茶碗にても、煎茶茶碗にてもよし、略下

〔敎草女房形氣三上〕第五回

かくて隱居、中古渡の湯呑にて、茶を呑て下に置き、略下

〔煎茶早指南〕茶鍾

形さまゞ〳〵あれども、いづれもちいさくして內は玄ろく、かうだいのたかきをよしとす、內の白きは、煎茶もつとも色を賞するものゆへなり、かうだいの高きは、持にあつからぬためなり、

近比兄翁姓氏未詳松風店の形を、瀨戸にてうつさせられしを、專ら瀨戸物にうりひろむ、

得神の二字をかきたる茶わんは、木田の淸廉ぬし、瀨戸にてやかせられたるが、用てよき事は、兄翁の好にまされり、玄かれども賣物になし、是も形は故人の好みおかれたるものなり、

〔俳優家贔屓氣質〕腐儒者の芝居好は陳奮感心な狂言の講釋

此めぼうし茶の湯ではない、茶呑茶碗のきたなびれたを、去る御屋敷で梅が枝といふ銘を付、三百兩迄付たれど、まだ相談があかぬほどに、お前樣にお目にかける、略下

〔鎌倉諸藝袖日記二〕茶人の俄慇懃丸躶の亭主

中立の後に成ては、どこの乞食がのんだやら、はぬけのおやぢの玄らいで、一生茶漬茶碗に、玄たやらしれぬ古茶わんを、かゐでみたり、ひねくりまはしたり、略下